

2025.9.4 (木)
第8回例会
(通算3818回)

2025-2026 年度 釧路ロータリークラブ会報

会長スローガン「笑顔と誇りを胸に、挑戦するロータリー」

会 長 荒井 剛
副 会 長 池田 一己
幹 事 横田 英喜
編集責任者 クラブ会報・雑誌委員会

例会日 毎週木曜日 12:30 ~ 13:30 夜間例会 18:00
例会場 釧路センチュリーキャッスルホテル
事務局 釧路市錦町 5-3 三ッ輪ビル 2F
☎ 0154-24-0860 📠 0154-24-0411

2025-2026 年度
国際ロータリーテーマ

『よいことのために 手を取りあおう』
UNITE FOR GOOD

2025-2026 年度
RI 会長 フランチェスコ・アレツツォ

第 2500 地区ガバナー
佐渡 正幸 (釧路北 RC)

本日のプログラム 講師例会「子ども食堂、地域食堂のいま」(プログラム委員会)

次週例会 講師例会「釧路公立大学ってどんな大学？」(プログラム委員会)

■ロータリーソング：君が代・奉仕の理想 ■ソングリーダー：川島 勝美君

■会員数 108 名

■ビジター

■ゲスト 釧路地区食でつながるネットワーク 代表 小野 信一様

会長の時間 荒井 剛会長



います。

前は、ロータリーソングがいつ・どこで生まれたのかの話をしました。ロータリークラブが生まれたシカゴロータリークラブで5人目のロータリアンであるハリー・ラグルスさんが会員同士で少しギクシャクしているところを和ませようと思って歌を歌い始めたのが最初です。

その後、国際的にはどうなったのかです。日本のように、ロータリーの例会の前に必ず歌を歌うとはならないのです。大きな大会の最後のほうで歌を歌うくらいで、日本のように毎回歌うことはないと聞いております。

大会などで最後に歌う歌はどんな歌か、です。今日も1曲聞いていただきたいのです。

誰でも絶対に聞いたことのある曲です。歌の名前はスコットランド民謡の『オールド・ラング・サイン』という曲です。歌っているのはアメリカのホーム・フリーというアカペラのグループです。ロータリーで歌っているのではないですが、YouTubeで「その歌を歌う」というところで調べてみました。ちなみに、これ

を再生することは著作権法に違反はしていないと調べておりますから大丈夫です。

(楽曲 オールド・ラング・サインを紹介)

これは、日本語でいうと『蛍の光』です。元の英語の歌詞はどんな内容かというと、冒頭とサビがありますが、古き友を忘れてしまっているのだろうか。懐かしい日々を思い出さなくていいのか。と、最初に問いかけがあります。サビでは、わが友よ、懐かしい日々のために友情の盃をかわそう。という内容になっています。

国際大会などで、特にアメリカですが、最後にこれをみんなで歌うのが世界的なロータリーソングの流れとなっております。

では、日本はどうかです。日本も当初は英語のロータリーソングを歌っていたようです。歌っていると「日本なので、日本語でロータリーソングを歌おうじゃないか」という話になって、1935年の京都での地区大会で正式に日本のロータリーソングを募集することになりました。

そこで、3曲くらいが挙がってきて、そのうちの2曲が今日も歌った『奉仕の理想』、あと『我らの生業』。これは1935年に日本で作られて、この2曲が全国的に歌われました。この2曲以外に『手と手をつないで』と『おおロータリアン』を歌うのですが、これは後でいろいろ歌われています。

今日は『奉仕の理想』が歌われたので、一言、エピソードをお伝えします。歌詞で「奉仕の理想に集いし友よ」の後に「御国に捧げん」とあります。元々、作詞した

前田さんは「世界に捧げん」と書いていたらしいのです。「世界につながる」というのが「ロータリーアンっぽい」という話があったのです。ところが、当時の背景事情、歴史的な事情の背景があって「日本のために」ということで1930年代から例会の前に国歌を歌うようになりました。これも「御国」に変える事情がありましたことから今でも御国という言葉になっております。

以上がロータリーソングのパート2、世界の話・日本の話。パート3も準備しておりますので、お楽しみにしていただければと思います。

今日はこれで終わりたいと思います。ありがとうございます。

幹事報告 横田 英喜幹事

9月になりましたのでロータリーレートが変わりました。9月のロータリーレートは147円です。

9月1日、『ロータリー月信』がオンラインで配信されておりますので、皆さんにご一読いただければと思います。

第1回理事会では議事録を例年どおりホワイトボードに掲示しております。ご覧いただければと思います。地区の社会奉仕委員会から連絡がありました。「10月5日に白糠町の恋問館の前の海でゴミ拾いを行う」という話が出ております。参加できる方は幹事まで連絡いただければと思います。ただ、この日は、釧路クラブの地区補助金事業の「湿原のツアー」も行われておりますので、考えて参加いただければと思います。この例会終了後、第3回目の理事会を開催しますので理事の皆さまはお集まりいただければと思います。以上です。

■本日のプログラム■

講師例会「子ども食堂、地域食堂のいま」

プログラム委員会 藤井 敬亮委員長

本日は長年、釧路市社会福祉協議会、そして北海道社会福祉協議会に勤められて退職後は、釧路市おもちゃライブラリー会長、釧路市防災士ネットワーク代表、そして近年、釧路地区食でつながるネットワークを立ち上げられました。子ども食堂、地域食堂に援助の手を差し延べている福祉事業全般に精通されている方です。

小野信一様のご紹介となります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

釧路地区食でつながるネットワーク

代表 小野 信一様



皆さん、こんにちは。私がここでお話をさせていただくのは、赤い羽根の共同募金の時にお話をさせていただいて数年が経ちました。今般

は、お呼びをいただいて大変感謝しております。

今日は『子ども食堂・地域食道の食でつながるネットワーク』というボランティア団体の代表も担っておりますので、そのお話を中心に30分弱、お聞きをいただければと思います。

食堂に限らず、フードバンク、フードドライブなど、それから食の困窮者の方々への食の提供など、食は人間の営みの中の大変大事な中心課題ですから、私たちも食道にとどまらない活動を展開しておりますから、今日の会員の皆さまもいろいろなところで、いろいろな形での支援をいただいているものと思っております。心から感謝を申し上げたいと思っております。

ロータリーの関連で言いますと、私の父親が南ロータリークラブのチャーターメンバーでしたので、釧路ロータリークラブさんには大変お世話になり、4年ほど前に91歳でなくなりましたが、過去にガバナーを担われた清水幸彦先生は1月1日で、うちの父親は2月18日で同じ年でした。清水先生は、私が社会福祉協議会に長く務めておりましたので、その会長としても大変ご指導をいただいた先生でした。そんな意味で、このロータリーのお話で話をさせていただくのは光栄でございます。

皆さまのお手元にふたつの資料をお渡ししております。子ども食堂のパンフレットをご参照いただきながら、プレゼンテーションの内容は資料としてお渡ししておりませんから、こちらを見ながら、お受け止めいただければと思います。短い時間ですから端折りながらになりますが、よろしく願いいたします。

北海道新聞さんと北日本広告社さんのご支援ご協力がありまして、今年で4回目の全面広告で4月13日に子ども食堂と地域食道のPRをさせていただきました。これだけの皆さまの広告ご支援をいただきながら、それを財源とした全面広告となりました。これまで1回目、2回目、3回目とご支援をいただいた賛助金・協賛金を財源として、ここで出した食道に対して助成をさせていただいていることでも、ここに関りを持っておられる企業と会員のみな様、本当にありがとうございます。

いま、皆さまに見ていただいている資料の表面に子ども食堂・地域食道のエッセンスというか思いを載せていただいています。私は釧路市周辺の8市町村

の子ども食堂・地域食道のネットワークをつなぎとめている釧路地区の代表ですが、いまは 28 団体になります。さらに増えてきているのです。それを全て載せながら表面でアピールしてご理解をいただきながら進めています。新聞の全面広告で出したものをこのチラシにしたためて、釧路管内の市町村全小学校の子どもたち全部にお配りして「皆さんの近くにはありますから、参加してね」と呼びかけをさせていただいているのです。小学生のお子さんがある会員の皆さまにはきっと見ていただいていると思います。6 月に北日本広告社さんと釧路新聞社さんのご協力で作成していただいて何万という数で配らせていただいております。

まだ 4 年しか経っていませんが、私たちは 2021 年、令和 3 年 8 月 1 日に発足して、その始まりから現在の活動をお伝えさせていただきたいと思います。

私は 60 歳まで釧路市社会福祉協議会で働いて、その後は地域包括支援センター、望洋のセンター長を 1 年間務めて、その後に北海道全体の社会福祉協議会活動の釧路地区 8 市町村の老人クラブとか障害者の方たち、社協と職員の、民生委員さんの事務局長を 4 年間務めました。その中で研修の企画をさせていただいたときに、特に主任児童委員を担う方たちの釧路管内全部の研修会を行いました。私は企画者の発案として子ども食堂・地域食道に関しての学びを、子どもたちの生き方に関わってくる子ども食堂に関して関係するスタッフに来ていただいてパネルディスカッションをしようと企画しました。

その時に大変盛り上がり、行政説明も北海道職員からいただきましたが、「くらしごと」という生活困窮者の支援を行っている団体をご存知と思いますが、その方々と藤井さんが載っている「元町お寺食道」の担い手の方、「美原かがやき食道」の担い手の方などに出ていただいた会があって、「担っている方たちの横の連携が大事なな」となって、そこを私も端緒を受け止めて進めて来たのがはじまりでした。

その後、「釧路地域子ども支援ネットワーク会議」「釧路地域子どもの居場所づくりネットワーク会議」「子ども食道とワーキンググループの開催」の前後に、北海道の計画の中で「子どもの居場所の計画を立てて各市町村で作って行こう」が大きな目標だったのです。私たちはそれを受け止め呼応しながら、釧路総合振興局の会議室に食堂の関係者、支援をする社協の職員などが集まって連携を高めて行った、そういう機会が積み重なって今に至っているのです。端緒と展開です。

21 年の 2 月には横の連携、コロナもあってズームで連携をとって行こうということで、勉強会をしながら積み上げて行った経過があります。下に「牛乳贈呈券」と出ていますが、北海道の酪農協議会の皆さまからたくさんの牛乳券のご寄贈いただく機会がありました。その受け皿として「なにが横の連合会がないと

まく行かない」となり、それを端緒として今までのネットワークの積み上げを含めて会ができたのです。この牛乳券はありがたかったです。1 枚 200 円の牛乳券をたくさんいただきました。その時に、「釧路市内にとどまらず町村の食堂にも」というお声掛けがありましたので、協議会の皆さまの「対象が町村の方たちにも」ということもあって横の連携をとりながら、中味は牛乳だけではなくて乳製品も展開できるという話をいただき、中にはヨーグルトに替えて渡したり、アイスクリームなど牛乳に関連する商品を提供したりする機会に恵まれて、これがバージョンアップして行く機会になりました。

北海道新聞社さんと北日本広告社さんのご支援による新聞全面広告が注目を受けて始まったのが 22 年、4 年前のことです。4・5・6 年と今般が 4 年続けてのご支援でした。ここで釧路市社会福祉協議会も加わって、私たちと各食堂と 2 社とともに調整をしながら最初の新聞全面広告が左です。この時からご支援をいただいている皆さまもおられると思います。ありがとうございます。

協賛金を基に掲載した各食堂にお米券をプレゼントしたのです。その後に、「ありがとうございました」という感謝の半面広告を出したのが右の写真です。いただいております。これをローリングしながら、その間にチラシを各小学生に配るのが 4 年間続いているのです。

これは、その後「FMくしろ」で PR させていただいた図です。着ている物は防災士の服で、最近の私は防災士で新聞などに出ることが多いので、「お前は何者なのだ」と言われた時には「活動の流れで」ということで FMくしろに出た時のものです。今日、この後に共栄中学校で全校生徒に防災の話をする予定です。

食堂の広域的な横のネットワークを作っているのは、北海道は 14 地区に分かれています。その中の釧路は早かった。隣の根室、1 市 4 町でも「つながる根ネットワーク」のネが根室の根です。この「つながる根ネットワーク」ができて展開していて、広域連携で私どもも釧路・根室の連携を進めさせていただいております。

最近、北海道の関係者と北海道のネットワークの関係者からは「釧路・根室の市町村を超えた広域的なネットワークは他にはない」と聞いております。北海道の中では釧路と根室だけなのです。それだけに裾野を広げて来たということです。

『むすびえ』という団体があります。そこからお借りしたのですが、『孤独のグルメ』によく出ている松重さんです。公共広告機構のコマーシャルで、子どもたちがいる所へ松重さんが来て、「おじさん、こっち、こっち」と言ってその場で一緒に楽しく食べるという公共広告機構の公共コマーシャルを見た方もおられる

と思います。

全国の子ども食堂のネットワークの『むすびえ』という団体が頑張ってくれて、各地域の子ども食堂へ直接的な助成とか、私たちのような中間支援の団体にも支援をいただいています。この情報を先ほど確認したところ、「全国で1万カ所を超える食堂が展開されている」とありました。子ども中心の所もあれば、お年寄りと地域の皆さまの所もあるのです。全国で1万カ所を超えて、そして右肩上がりですからどんどん広まっているという事業・活動になっています。

担い手はいろいろです。任意団体、ボランティア団体、NPO団体などがあります。それから社会福祉法人の地域貢献活動のひとつとして展開している所もあります。企業の方が自らの企業活動・職能活動の他に時間をとって社会貢献のひとつとして展開している所もあります。末広のど真ん中の居酒屋さんでも展開いただいています。いろいろな所があります。

右下の顔は皆さまにもなじみがある顔かと思うます。湯浅さんという方です。リーマンショックの時に東京で『年越し屋台村』を開いて助けてあげた方です。そういう思いを持って社会活動をされている方です。今は代表を降りたのですが最初の立ち上げの時には理事長をされていました。

北海道に目を移すと、札幌市の中で横の連携を作りながら、さらに全道に呼びかけようと、北海道全体での「子ども食堂北海道ネットワーク」という団体もいま動いています。釧路・根室の私たちの関係団体の一部で参加している方たちもいるのです。根室で加盟している団体もある程度あります。北海道全体ではこのネットワークに177団体が加盟している状況です。

行政の北海道が調査したところ、これは令和6年の4月で、1年以上も前のデータですけども324カ所、そのすべてが先ほどの北海道のネットワークに加盟をしているわけではありませんけども324カ所という数、これが1～2年前では200とかだったのが、どんどん増えて、今は179の市町村の中で80市町村に拡がりました。見ていただくと道北の方が少し少ないという展開ですね。この子ども食堂、地域食堂の視点でいきますと、この緑色の所・釧路根室は本当にたくさん展開しているという地域的な特徴もあります。全道では324カ所まで広がり、全国では1万カ所以上です。

その中で特徴的な食堂をひとつ抽出してお伝えします。『美原かがやき食堂』、釧路の中でも老舗の食堂です。なぜ「かがやき」かですが、釧路市内には「コア」がコア大空、コア鳥取とコアかがやき、と三つあります。そのひとつで、公立大学の少し奥にあるコアかがやきを活動の場として行っていることからです。毎月1回、第二土曜日に行っていて、今般、10周年になりましたので、5月10日に10周年記念の食堂を行

いました。

10周年だから贅沢をしようとフランス料理の大御所に実際に調理にも関わっていただきながらのご支援をいただきました。ここでは子どもたちが調理をしたり、配膳をしたり、下げ膳をしたりして参加しています。担っているのです。

これはいくらでやったのか。大人300円・子ども100円の通常と同じ金額で提供したというのです。大変喜ばれたと聞いております。もう、11年目に向かっております。

これは10年前に始まった時の図です。左上の松田さんという女性が立ち上げたのです。この方の息子さん・松田君が一輪車の世界チャンピオンになったのです。そういうこともあって美原小学校を中心に一輪車サークルを立ち上げ、その展開の中で「みんなで楽しいことをしよう」とその活動の基本だったコアかがやきを活動場所として始めたのです。

当時は、大変注目を集めました。ここより先にやっていた地域食堂もあったのですが、釧路の中では美原かがやき食堂さんが草分け的であり、展開しているいろいろご理解を得ている所になっております。

ここが特徴的なのは、食事の提供だけではなくて、左側に運動、右側には学習とあります。公立大学が近くにあるので大学には100人近くボランティア部員がいるので、その方たちに来てもらって学習指導をしていただきながら食を楽しみ、さらに一輪車で体幹を鍛え、心も体も食も腹も満たすのを兼ね合わせながら行っているのが素晴らしいと思っています。真ん中に一輪車です。右は学習指導です。左下、お母さんたち・子どもたちが一緒に作っているのです。このようにして毎回200食以上も提供している食堂は全国的にも珍しいのです。先日、全国の『むすびえ』の関係者と研修会を行いましたけど、その中で「200食とは、聞いたことがないな」と言われましたが、それを今でも続けております。コロナ以降、予約制にしてみましたのですが、今は予約制で調整をしています。

その他に、元町で『お寺食堂』も歴史があり、藤井会員には本当にお世話になっております。菅原会員もそうですね。大成寺さんから始まり本行寺さんとともに交互に2カ月に1回やっただいて、お寺ということもあってたくさん集まって来ます。左の上が本行寺さんで行った時の図です。

右には地域の町内会館で行った武佐地区の子ども食堂・地域食堂です。それからこれは、まさに子ども食堂で、釧路町の子ども食堂です。こんなにたくさん集まって、コロナのさ中でどうしたかということ、お弁当を作ってそれをお配りした。「コロナだから止めて続けない」ではなく、いろいろ形を変えて展開して頑張っている食堂です、釧路町です。

これは、文化会館の2階に『イペ』という喫茶店が営

業しています。彼女も思いがあって子どもたちが担うような形を作りながら月に1回、地域貢献として低額でその活動をし、子どもたちの活躍の場としても展開しています。

8月6日には、私たちの活動に注目いただいて北海道知事が各地で短時間ですが地域の活動を受け止め、理解して広げていただく『直道カフェ』に来ていただきました。下の図では、知事に対して「なんでやねん」と言ったところで、後で怒られましたが、知事と親しく懇談をさせていただきながらご理解をいただいたところです。

食道のことを中心に話させていただきましたが、それまでに「ふれあい生き生きサロン」とか社協でも活動していましたが「地域のネットワーク」、地域でつなげる活動の中で子どもたちが、大人が作った弁当を一人暮らしの家庭に提供しました。認知症の方に集まっていたの「認知症カフェ」とか、「お達者サービス」など地域の方の自主的な活動の中で「食」を核にしてお集まりいただいて地域のつなぎ合いを進めていることもあります。

最後に、私たちがこの活動をやっていることは、SDGsの17項目がありますが、2030年が目標ですからあと5年しかなくなりました。

こういう意識を持ちながらやっていて、読んでみます。子どもやお年寄りをはじめ、全ての地域住民が孤独を感じず、孤立せずに安心して集い、食をとおして楽しくふれ合う場としての食堂を一カ所でも多く誕生して、進んで行くようなことを支援したい。

そして、その食堂の担い手自身が生きがいあふれる活動として実感できるためのマンパワー、そして資金援助などの物心の支援が期待されるから求めたい。

3番目に、食から広がるあらゆる居場所としての営みに拡充されて、見守り、声掛け、手さぐりの地域共生社会の実現を目指す、地域住民が参画する場として担っていきたい、それを支援したい。

これが願いでございます。

もう1枚のチラシは、その関連でお持ちしました。私の出身の日本福祉大学のセミナーがプリンスホテルにありますので、見てご関心をいただければと思っております。

以上です。ありがとうございました。

会長謝辞 荒井 剛会長

小野様、大変ありがとうございました。

役職が数ある中で、防災士のネットワークもやられております。本当に幅広い活動をされているなと思っております。

先ほどお伺いしたところ、経歴として高校時代にバレエ部に所属しておりまして、工藤エレクトが小野さんの後輩に当たるとお聞きしましたので、何かあったら小野さんに相談させてください。

最近、町内会とかでは高齢化が進んで人が集まらない、町内会の活動が少なくなっていることもありまして、子ども食堂など子どもを中心にした活動が多くなることによって地域の方、特に高齢者が集まるのに支援が必要だと思っていたので、今日のお話では全国に1万カ所、北海道にも324カ所の食堂があることについて改めて驚きました。

このような活動がもっと広がればと思いました。本日は貴重なお話をありがとうございました。

(点鐘)

本日のニコニコ献金

■杉村 莊平君 富士山登頂してきました。

今年度累計 63,000 円